

- 聖書箇所： マルコの福音書 3:13-19、ヨハネの福音書 13:34-35
- 聴 衆： 名古屋緑福音教会メンバー
- 説教題： 十二弟子任命の目的
- 主 題： 私たちが人生において学ぶべき最も大切なことは何か？
- 属 語： それは、イエス様の御側でその愛を受け、隣人を愛することである。

●導 入：

今日の箇所は、イエス様が十二弟子を任命されたところです。ルカの福音書をみると、イエス様は徹夜でお祈りをされて、その明方に十二弟子を任命されたとあります。この十二弟子がいなければ、最初の教会が誕生することもなかったでしょうし、今日まで全世界に福音が拡がり、自分たちのところに福音が届くことはなかったといえるかもしれません。そう考えるときにとっても重要な出来事だったと思います。今日は、メッセージの題を「十二弟子任命の目的」とさせていただきますが、ここからごいっしょに主の御言葉に耳を傾けていきたいと思います。

●本 論：

1. イエス様が十二弟子を任命された

1) 弟子たちがイエス様を選んだのではない

- ・普通、どんな仕事でも弟子の方が師匠を選んで、弟子入りする。職人の世界なんかは特にそう。当時のユダヤでもそうだった。自分が学びたいと思う先生を自分で選んで、お願いをして弟子にしてもらっていた。
- ・しかし、イエス様はそうではなく、イエス様の方が弟子たちを選び、名前を呼んで任命された。(ヨハネ 15:16)

2) イエス様の方が私たちを選んで下さった

- ・イエス様を信じて、教会に来始めた頃は自分でイエス様を選んだと思う。でもしばらくすると、「そうではなかったんだ、イエス様の方が私を選んで導いて下さったんだ。」ということが少しずつわかってくる。
- ・しかも、天地創造の前から私を選んで名前を呼んで下さった！(エペソ 1:4)

2. イエス様が任命された

1) 様々な職種、立場、性格を持ったユニークな者たちの集まり

- ・漁師(読み書きもままならない)、取税人、暴動を起こす者(テロリスト)、短気な者、疑い深い者、そして裏切り者
- どちらかと言えば、問題(課題)のある者たち。なぜこの人を？というような人たち。もし自分だったら、まず選ばない。逆に避けるような部類の人たち。何か働きや事業をしようとするなら、能力のある人、人格の整った人、常識人、自分と合う人、やり易い人を選ぶ。あえて、トラブルの原因になるような人、

その可能性が高い人は誰も選ばない。まして、自分を裏切るような人は、、、

2) イエス様は私たちが何かができるから、何か特別な能力があるから、人格が整っているから選んだのではない。

・問題の多い、未熟な、弱くて、罪深い私たちをあえて選んで下さった

### 3. イエス様が十二弟子を任命された目的

1) 宣教の働きをさせるため

①神の国の福音を宣べ伝える ②あらゆる病気を癒す ③悪霊を追い出す

2) ご自分の身近に置くため

・実はこのことが最大の目的だった

・約三年と少しの間、十二弟子はイエス様と寝食を共にした

・弟子たちはイエス様と共に歩み、共に時間を過ごす中で、何を見、聴き、感じ、触れ、学んだだろうか、、、

①奇跡(五千人の給食、嵐が一瞬で静まる、ラザロの復活、生まれつき盲目の人の目が開かれる、、、など)

②信仰の訓練

③教え(群衆に対して、また彼らだけが聞いた特別なこともあった)

→彼らにとって、何にも代え難い経験であり、必要なことだった

◎しかし、彼らが受けた最も大切で必要だったことは、イエス様の愛だった！

→最後の晩餐(いよいよこれから十字架に向かう直前)において、イエス様は弟子たちにおっしゃった。

「・・・あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ 13:34, 35)

→どの点において、「新しい戒め」なのか？ →「わたしがあなたがたを愛したように」

●イエス様が十二弟子を任命し、ご自分の身近に置かれた最大の目的は、彼らに愛を注ぐことだった！

その十二弟子の中には、イエス様を裏切ったユダもいた。イエス様はこのユダさえも最後の最後まで愛し抜かれ、そして十字架につけられていった。ユダは誰でしょうか？ 私たち一人一人ではないでしょうか？

イエス様に背を向け、敵対し、裏切ってしまうことのあるような罪深い私たちではないでしょうか、、、しかし、イエス様はそんな私たちを天地創造の前から選び、名前を呼んで任命してくださり、今も変わらず愛し続けて下さっている。十字架においてご自分のいのちを与えるほどに愛してくださっている。

### ●結論:

イエス様は十二弟子を任命し、三年と少し、ご自分の身近に置かれ、愛を注がれました。

イエス様は私たちをも選び、ご自分の御側に引き寄せてくださって、今も聖霊によって豊かに愛を注いでくださっています。そして日々、隣人を愛することを学ばせてくださっています。時に、なぜ今、自分がここにいるのか、本当に必要なのか、今やっていることは本当に必要なことなのか、わからなくなることがあるかもしれません。しかし、イエス様はあなたが今置かれているところで、出会わせてくださっている一人一人を愛することを願っておられます。しかし、隣人を愛せない、受け入れることができない、平和を保つことができない、そういう自分中心の罪を嫌というほど痛感させられる、どれだけ自分の内には愛がないかということを思い知らされる毎日です。それにもかかわらず、イエス様は決して変わることなく、私たちを愛し続けてくださっています。そして隣人を愛するようには導いて下さっています。イエス様はあなたしか入ることのできない宣教の地に遣わしてくださっています。そのイエス様の愛を本当に実感し、学び、体験できるのが主の教会ではないでしょうか？教会において、働きや奉仕、学び、それらはとても大切です。でも最も大切なことは、なくてはならないものは、イエス様の愛を受けて、互いに愛し合うことではないでしょうか？